

令和8年度 きゅうり 技術情報 No.5

大船渡農業改良普及センター
電話:0192-27-9918 FAX:0192-27-9936)



- ① 台風・豪雨等の事前・事後対策を徹底しましょう。
- ② 長期収穫のために、病葉の摘葉＋薬剤散布を継続しましょう。
- ③ 翌年のために、萎れ等の原因を特定しておきましょう。

1 台風・大雨対策

◎事前対策

- ・ 大雨による侵入水を防ぐため、ほ場・ハウスの周囲に排水溝を設置します。
- ・ 強風に備え、ネットや支柱の強度を確認し、緩んでいる場合は補強しましょう。
- ・ 防風ネットを設置している場合は、ワイヤーや針金を張り直し、ネットの破損を補修します。ハウス栽培では、ハウスバンド(マイカ線)が切れていないか、緩んでいないかを点検するとともに、ビニールの破損があれば補修します。筋交などの補強を実施して強風に備えます。
- ・ 収穫可能なものは、できるだけ事前に収穫します。

◎事後対策

- ・ ほ場にたまった水はただちに排水し、長時間滞水しないように努めます。排水後、ほ場作業が可能になったら、①マルチ穴を広げ畝の中の水分を乾かす、②畝間の中耕を行う、③酸素供給剤を活用する等の対策を実施し、土壤中に酸素を送り根の伸長を促進します。
- ・ 風で損傷した茎葉を片付けた上で、防除暦を参考に薬剤散布を実施します。茎葉に泥土が付着している場合は、動噴で水をかけ、泥を洗い流した後に殺菌剤を散布します。特にべと病、炭疽病、褐斑病を重点的に防除します。
- ・ 草勢が低下した場合は、必要に応じて液肥を薄い倍率で施用または葉面散布し、草勢回復を図ります。

2 病害防除

- ・ 今年は梅雨明け後も降雨や曇天続きで、薬剤散布のタイミングを逸し、病害が多発したほ場もあります。病害の発生が少ないうちに罹病葉の摘葉＋薬剤散布を定期的に行いましょう。
- ・ これからの時期は、べと病、炭疽病、褐斑病に加え、斑点細菌病も発生しやすい環境になります。適切な薬剤選択、定期防除で長期収穫を目指しましょう。
- ・ 混合剤も多いため、成分の使用回数にも十分注意して薬剤を選択しましょう。

表 殺菌剤一覧(炭疽病、褐斑病、べと病)

薬剤名	病害名	使用時期	希釈倍数	使用回数	備考
ゲッター水和剤	炭疽病◎ 褐斑病◎※	収穫前日まで	1,500 倍	5 回以内	
アミスターオプティフロアブル	炭疽病◎ 褐斑病◎※ べと病◎※	収穫前日まで	1,000 倍	4 回以内	QoI剤。※1 TPNを含む。※3
ストロビーフロアブル	炭疽病◎ 褐斑病◎※ べと病○※	収穫前日まで	3,000 倍	3 回以内	QoI剤。※1
ファンベル顆粒水和剤	炭疽病◎ 褐斑病◎※	収穫前日まで	1,000 倍	3 回以内	QoI剤。※1 イミノクタジンを含む。※2 黒星病 ◎※
カーニバル水和剤	炭疽病◎ 褐斑病◎ べと病◎	収穫前日まで	1,000 倍	3 回以内	TPNを含む。※3 ジメトモルフを含む。※4
ミギワ10フロアブル	炭疽病○	収穫前日まで	1,000 倍	3 回以内	つる枯病 ◎
ベトファイター顆粒水和剤	べと病◎※	収穫前日まで	3,000 倍	3 回以内	
ランマンフロアブル	べと病◎	収穫前日まで	2,000 倍	4 回以内	

※1：耐性菌発生リスクが高いため、連用や止め散布は避け、他のQoI剤と合わせて年2回以内の使用とす

※2：ファンベル顆粒水和剤、ベドロー水和剤は、同じ成分(イミノクタジン)を含む。イミノクタジンを含む農薬の総使用回数は7回以内。

※3：アミスターオプティフロアブル、カーニバル水和剤、ダコニール1000、ベジセイバーは、同じ成分(TPN)を含む。TPNを含む農薬の散布での総使用回数は12回以内。

※4：カーニバル水和剤、フェスティバルC水和剤は、同じ成分(ジメトモルフ)を含む。ジメトモルフを含む農薬の総使用回数は3回以内。

令和8年8月31日の農薬登録情報に基づいて作成しています。

農薬の使用は、必ず容器のラベルで使用基準(適用作物、単位面積当たりの使用量や希釈倍数、使用時期、有効成分の種類ごとの総使用回数)や注意事項を確認し、農薬使用者が責任を持って使用してください。適用病害虫に対する防除効果について、農業研究センターが判断できるものを、◎：優れる、○：有効と示しています。また、※は当該薬剤と病害の組合せにおいて、同一薬剤の連用又は同系薬剤の連用によって耐性菌を生じやすい薬剤であることを示します。

3 キュウリホモプシス根腐病と症状が類似する萎れ

- ・ キュウリホモプシス根腐病に根が感染すると、日中に葉が萎れ、夕方に回復する症状を繰り返すうちに、下葉から枯れ上がります。
- ・ しかし、地上部に萎れ症状を引き起す要因には、これ以外にも様々あります。
- ・ 栽培のチェックシートも併せて実施して萎れの発生原因を特定し、翌年の栽培に生かしましょう。

(出典：岩手県におけるキュウリホモプシス根腐病

総合防除対策推進マニュアル(R2.3 月改訂)より)



キュウリホモプシス根腐病による地上部の萎れ

(1) 他の病害虫によるもの

つる枯病	ネコブセンチュウ	疫病
○茎の発病状況を確認 ※全戸巡回(8/20-21)でも、発生圃場がありました！ 	○茎や枝に異常が見られない場合は、必ず根を確認すること 	 ↑ 地際のくびれ、↓ 果実腐敗 
	ウイルス病の複合感染 (CMV+ZYMV) ○葉のモザイク症状を伴う。アブラムシが媒介 	

<対策>

- ・それぞれの病害虫に対応した薬剤散布、栽培環境の整備を行います。

(2) 病害虫以外の要因によるもの

<発生要因>	<発生防止・防除対策>
○根群の形成不良による土壌水分吸収不足によるもの ※1	
・老化苗等 不良苗の定植	・適期定植、育苗技術の改善
・定植時の土壌水分不足による活着不良	・適期のマルチング、株元かん水等
・耕盤形成による排水不良及び根群形成不良	・エアージェクター、プラソイラによる耕盤破碎
○その他の要因によるもの	
・多肥による生育バランスの崩れ	・土づくり、塩基バランスの改善、減肥
・着果負担の増大、強摘心による草勢低下	・生育に応じた適正管理、根張促進
・接ぎ木不良	・接ぎ木技術の改善

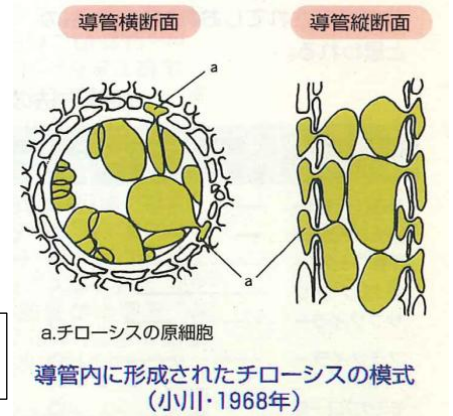
※1) 地上部の生育に見合う根の量がない、または水分不足により導管が詰まっている事例



老化苗定植により、主根が根鉢状にしか伸びず、根量不足



極度の乾燥により、導管が詰まった状態(チロース形成)



◎ 萎れが発生した場合は、JA、普及センターへご連絡ください！

- ◆ 農薬使用の際は、①ラベルによる使用基準の確認 ②飛散防止 ③実績の記帳 を徹底しましょう。